



容積を10分の1程度に減らせる

エルコム

リサイクル機器のエルコム(札幌市、相馬督社長)は、はえ縄漁や養殖のいけすなどで使われる発泡スチロール製の大型ブイ(浮き)を圧縮処理する装置を開発した。破碎後に熱を加え、

大型ブイの圧縮処理機

漂流ゴミ対策に一役

容積を10分の1程度に減ら 円で売り出す。

す。全国の浜辺に打ち上げられる漂流ゴミに悩む漁協や廃棄物処理業者向けに、初年度に20台程度の販売を見込む。 置を販売しており、直径70 移程度の大きなブイも直接投入できるように装置を大型化した。

大型ブイを2分程度で破碎・圧縮した後、再生固形燃料「RPF」の原料などにする。養殖業の盛んな西日本を中心に販売するほか、中国など海外からも引き合いが来ているという。2月下旬にも1台450万 搬費用の負担が大きかった。

漂流ゴミのなかで、使用済みブイは大型で処理しにくい。現在は溶剤で溶かす処理方法が一般的だが、溶剤の代金や処理施設への運搬費用の負担が大きかった。